

# 立川市街路樹あり方方針



令和2（2020）年  
立川市

# 目 次

序章	はじめに	1
<b>第Ⅰ章</b>	<b>立川市の街路樹</b>	
第1節	街路樹の現状	4
1	整備の状況	4
2	本市の街路樹の特性	5
3	特徴的な街路樹	10
第2節	維持管理の状況	14
1	維持管理業務	14
2	市民の関わり方	16
<b>第Ⅱ章</b>	<b>街路樹の課題</b>	
第1節	街路樹の生育に関する課題	18
1	生育上の課題	18
2	生育環境の課題	20
第2節	街路樹の維持管理に関する課題	21
1	維持管理費に関する課題	21
2	維持管理の質の確保に関する課題	22
3	維持管理における市民との関わり	23
第3節	上位・関連計画における街路樹の位置づけと課題	24
<b>第Ⅲ章</b>	<b>街路樹のあり方方針</b>	
第1節	街路樹のあり方の検討	26
1	街路樹のあり方方針	26
2	街路樹のあり方方針における基本的な考え方	28
第2節	本市が目指す街路樹	30
<b>第Ⅳ章</b>	<b>維持管理等方針</b>	
第1節	植栽の方針	34
1	街路樹の計画	34

2	植栽形態	35
3	植栽間隔・密度	37
4	植栽基盤	37
5	樹種選定	40
第2節	維持管理の方針	41
1	街路樹の望ましい姿	41
2	維持管理の考え方	42
3	管理の目標	43
4	街路樹のバランス	44
第3節	街路樹の保全・再整備	47
1	街路樹の維持管理における保全と再整備の考え方	47
2	サクラ・ケヤキの保全・再整備	50
第4節	保全・再整備の方法	51
1	樹形の作り直し	51
2	空洞・腐朽部処理	56
3	間引き	57
4	植栽基盤改良	58
5	根系切除	60
6	樹木保護	60
7	更新	62
第5節	その他維持管理における様々な対応	64
1	市民要望への対応	64
2	気象災害への対応	64
<b>第V章 街路樹と市民参加との関わり</b>		
第1節	街路樹と市民参加	66
1	市民参加のあり方	66
2	市民参加の可能性	67
第2節	市民との新たな関わりに向けて	70
<b>第VI章 あり方方針の具現化の進め方</b>		
第1節	あり方方針に基づいた街路樹の維持管理	72
1	街路樹の魅力を高めるための方策	72

2	街路樹の質を高めるための方策	73
3	街路樹との関係性を深めるための具体例	75
第2節	路線の評価と保全・再整備	76
1	路線の評価	76
2	優先的に保全・再整備が必要な路線	81
第3節	街路樹の再生	93
1	街路樹再生の進め方	93
2	街路樹再生における市民との合意	96
資料（方針図）		98

## 序章 はじめに

街路樹は、街にうるおいを与える一方で、大木化に伴う歩行空間の狭小化、道路標識等の視認低下、街路灯の照度低下、歩道の根上がり、老朽化に伴う倒木・落枝など市民生活の安全面に影響を与えています。

「立川市街路樹あり方方針（以下、「あり方方針」という。）」は、令和2年度の改定の「立川市緑の基本計画」と整合を図りながら、立川市（立川市道）の街路樹が抱える課題を抽出し、立川市が管理する街路樹のあり方を示し、植栽・維持管理・更新・間引き等（以下、「維持管理等」という。）の方針をまとめたものです。

あり方方針では、本市における街路樹の現状と課題を整理し、本市の街路樹のあり方と目標を明らかにしました。その上で、本市が目指す街路樹の維持管理に向けた基本的な考え方、本市が目指す街路樹を示しました。また、街路樹の植栽、維持管理、さらに、本市の街路樹に関する様々な課題に対し、街路樹の保全と再整備の方法や、街路樹を取り巻く市民との関わりについて整理しました。

あり方方針における様々な検討をもとに、本市の街路樹の魅力を高める方策、質を高める方策、街路樹の再生に向けた取組について具体的に示しています。

あり方方針では、本市の街路樹本来の機能を十分に発揮させるためにも、地域や沿道の環境や安全性に配慮し、市民との協働により愛着が持たれる街路樹を目指していきます。

# 第 I 章 立川市の街路樹

---



## 第1節 街路樹の現状

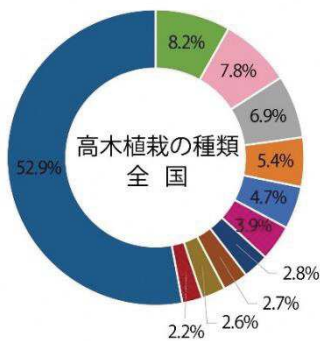
### 1 整備の状況

立川市には、86 路線、4,628 本、35 種類の街路樹が植えられています（平成 31 年 3 月現在）。

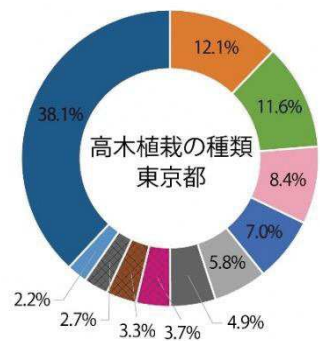
樹種別本数では、トウカエデ、ハナミズキ、ケヤキ（市の木）、カツラ、コブシ（市の花）が上位を占めています。樹種は落葉樹が多く、植栽樹種上位 10 位に常緑樹はなく、11 位以下にタイサンボク、アラカシ、マテバシイなどの常緑樹があり、常緑樹がまとまって植栽されている路線は 3 路線のみです。全国、関東、東京都に比べて立川市の街路樹では、カツラ、コブシが多いことが特徴的です。

表 1-1：立川市の路線ごとの植栽種類 上位 10 種

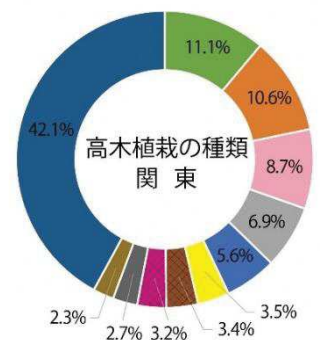
順位	樹種	植栽本数	備考
1位	トウカエデ	862	落葉広葉樹、中国原産
2位	ハナミズキ	689	落葉広葉樹、北米原産
3位	ケヤキ	608	落葉広葉樹、本州～九州
4位	カツラ	429	落葉広葉樹、北海道～九州
5位	コブシ	395	落葉広葉樹、北海道～九州
6位	イチョウ	344	落葉樹、中国原産
7位	ユリノキ	280	落葉広葉樹、北米原産
8位	サクラ	239	落葉広葉樹
9位	プラタナス	175	落葉広葉樹、人工交雑種
10位	モミジバフウ	125	落葉広葉樹、北米原産
	その他	482	



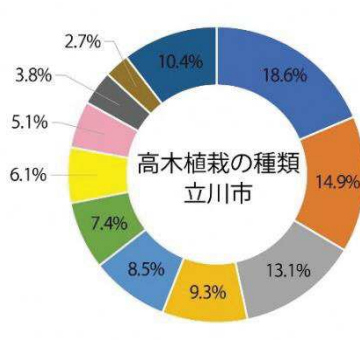
- イチョウ
  - サクラ類
  - ケヤキ
  - ハナミズキ
  - トウカエデ
  - クスノキ
  - ナナカマド
  - 日本産カエデ類
  - モミジバフウ
  - クロガネモチ
  - その他
- ※ 網掛けは常緑樹



- ハナミズキ
  - イチョウ
  - サクラ類
  - トウカエデ
  - ケヤキ
  - プラタナス類
  - クスノキ
  - マテバシイ
  - ヤマモモ
  - コブシ
  - その他
- ※ 網掛けは常緑樹



- イチョウ
  - ハナミズキ
  - サクラ類
  - ケヤキ
  - トウカエデ
  - ユリノキ
  - マテバシイ
  - クスノキ
  - プラタナス類
  - モミジバフウ
  - その他
- ※ 網掛けは常緑樹



- トウカエデ
  - ハナミズキ
  - ケヤキ
  - カツラ
  - コブシ
  - イチョウ
  - ユリノキ
  - サクラ
  - プラタナス
  - モミジバフウ
  - その他
- ※ 網掛けは常緑樹

図 1-1：高木の種類（立川市、東京都、関東、全国）  
データは『わが国の街路樹 VIII』（平成 29 年 3 月 31 日時点）

## 2 本市の街路樹の特性

### (1) 本市の特徴ある景観における街路樹

立川市には、JR立川駅周辺市街地のにぎわいのある景観から五日市街道・玉川上水・残堀川・立川崖線といった緑による自然のうらおいが感じられる景観、江戸時代の新田開発に由来する農地や住宅地が調和した景観が見られます。

街路樹は、こうした本市の特徴ある景観の形成に役立っています。

#### ① JR立川駅周辺市街地

立川駅周辺は、多摩地域を代表する商業・業務市街地として、にぎわいと活力あるまちの顔となっています。北口大通りには、街路中央に大きなケヤキ並木があり、特徴ある中心市街地の景観を演出しています。南口では、駅前広場にケヤキと街並みが一体となった駅前空間の創出、幹線道路沿いは、様々な店舗が立地しており、大規模な商業・業務ビルを中心としながら、中小規模の店舗などもあり、多様な表情をもつ商業施設となっています。路地では、飲食店などが軒を連ねた界隈性を感じられる景観が形成されています。また、立川の顔として整備されたファーレ立川周辺は統一感のある建築物とアートが一体となった魅力的な街並みが形成されています。サンサンロード沿道は、並走するモノレール高架軌道や広い歩行者専用道路からの見通りの良い象徴的な景観を創出しています。



写真：北口大通りの街路樹（ケヤキ）



写真：ファーレ立川周辺の街路樹（ハナミズキ）

#### ② 国営昭和記念公園周辺

国営昭和記念公園は、広大な広場と豊かな緑、花木園、日本庭園などが配置された広がり空間を持っています。公園周辺では大きく広がりある空と街路樹が創り出す象徴的な景観が広がっています。

また、周辺に集積する中低層の工場・倉庫群と国の施設などが街路樹と連携した景観を創出しています。



写真：昭和記念公園沿いの街路樹（ケヤキ）



### ③ 玉川上水沿い・五日市街道周辺

玉川上水沿いの緑は、玉川上水とともに地域がつながる水と緑の重要な景観をつくっています。玉川上水沿いの緑道に植栽された緑は、水の流れとも調和した地域の重要な緑となり、「玉川上水風致地区」、「玉川上水歴史環境保全地域」に指定されています。

また、五日市街道沿いに、屋敷林、ケヤキ並木などが多く残っており、豊かな緑とともに新田開発の趣が感じられる貴重な景観が「五日市街道風致地区」に指定されています。これらは、土地利用の転換などにより沿道型店舗や中高層住宅なども見られますが、武蔵野の面影が残った景観を創出しています。



写真：玉川上水沿いの緑地

### ④ 残堀川沿い

残堀川沿いは、河川に沿って見通しの良い景観や、水と緑が連続する景観が見られます。

残堀川の上に張り出したサクラの枝葉は、川の自然と一体となり見事な景観を創出しています。



写真：残堀川沿いのサクラ並木

### ⑤ 崖線周辺

国分寺崖線につながる川越道緑地の緩やかな斜面には、緑豊かな雑木林が広がっています。街路樹はこのような各地に残る樹林の緑と一体となって地域の緑の景観を創出しています。

立川崖線は、武蔵野台地の地形を顕著に表す崖上の地形に自然の樹木が植生し、緑の帯として、重要な景観をつくりだしています。



写真：国分寺崖線上にある緑地

### ⑥ 農地と住宅地の調和した空間

市北西部に多く見られる畑作を中心とした農地と宅地開発による戸建て住宅などが混在しています。農地と住宅地による街並みの中で、街路樹は周辺の農地や緑地と調和した景観として地域の緑の軸を形成しています。



写真：農地の中の街路樹

## ⑦ 旧集落の趣を残す住宅地

古くから集落が形成されてきた柴崎町、錦町周辺では、歴史的な資源や旧街道の雰囲気を残す石垣や生け垣など歴史や文化の趣ある景観が見られます。街路樹は沿道の植栽や地域の樹林とともに、地域の特徴として、心やすらぐうるおいある街並みを創出しています。



写真：柴崎町、錦町周辺の街路樹

## ⑧ 多摩都市モノレール沿道

多摩都市モノレール沿道は、軌道高架下の空間に植栽することで連続した緑の景観を創出しています。

また、本市を南北に貫く多摩都市モノレール沿道は、それぞれの地域で重要な景観要素となっており、駅前周辺ではにぎわい空間として活用され、その他の地域でも周辺の景観に調和した特徴的な景観を創出しています。



写真：モノレール高架下の緑地

## ⑨ 幹線道路沿道

幹線道路沿道では、沿道型店舗や屋外広告物などにより多様な色彩がみられる景観となっています。計画的に整備された幹線道路沿いでは、大規模な敷地に植栽された樹木などと一体になった広がりを持った緑の景観を創出しています。



写真：幹線道路沿いの街路樹

## ⑩ 大規模な団地

市内の大規模な団地は、中層建築物を中心とした住宅団地で、広いオープンスペースや樹木、街路樹などが計画的に配置され、良好な景観を創出しています。団地沿いの道路では、ケヤキ並木などの街路樹により豊かな緑に覆われたうるおいあふれる景観を創出しています。



写真：団地沿いの街路樹

⑪ 地域拠点と周辺の街並み

市内には、生活拠点となっている鉄道駅があります。西国立駅などの周辺は、住居系の土地利用に合わせ、整備された植栽の緑が景観を創出しています。また、武蔵砂川駅などの周辺は、農地と調和した自然の緑として、地域の景観を創出しています。



写真：西国立駅付近の街路樹



「⑩大規模な団地」「⑪地域拠点と周辺の街並み」  
は、市内に点在する

図 1-2：本市の特徴ある景観

## (2) 景観重要道路

立川市景観計画では、地域の景観を構成する重要な公共施設等を指定し、整備に関する事項を定めています。

立川市の道路管理者が管理する施設として、以下の3つが指定されています。

### ① 北口駅前大通り線

立川駅北口駅前広場より延びる幹線道路で、沿道には多くの商業ビルが建ち並び、にぎわいと活気のある道路景観が形成されています。



写真：北口駅前大通り線の街路樹  
(1級21号線)

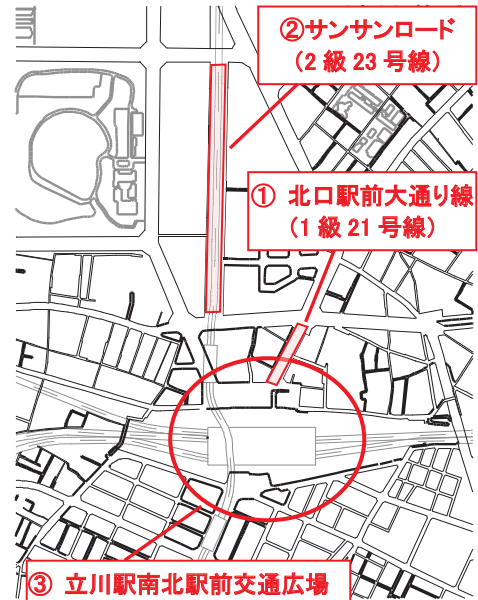


図 1-3：本市の景観重要道路

### ② サンサンロード

基地跡地の市街地開発により整備された、広幅員の歩行者・自転車専用道路で、中央には多摩都市モノレールが通り、沿道には商業ビルなどが建ち並び、にぎわいと活気のある道路景観が形成されています。



写真：サンサンロードの並木  
(2級23号線)

### ③ 立川駅南北駅前交通広場（デッキ含む）

立川駅の南北駅前交通広場は、ペデストリアンデッキを含め、来訪者を迎えるための重要なエントランス空間となっています。



写真：立川駅北口デッキの植栽



写真：立川駅南口の植栽

### 3 特徴的な街路樹

#### (1) シンボルとなる並木、風格ある景観の形成

##### ① 都市の景観軸の形成

駅前を通る中央分離帯に植栽されたケヤキ並木は、ケヤキ本来の姿が風格を持った印象的な景観を形成しています。



写真：北口駅前大通り線のケヤキ並木  
(1級21号線)

市街地に近い幹線道路では、ケヤキの樹冠が重なり緑の帯状となり、視線を誘導する連続した緑の景観が印象的です。

大きく成長し樹冠が重なっていますが、計画的にせん定することで、連続した並木の景観を創出しています。



写真：広幅員道路のケヤキ並木  
(中129号線)

立川駅北口から延伸するモノレール沿いには、幅が広い歩道空間に、樹形が整ったケヤキが並木状に植栽され、都市空間に緑の軸線を創出しています。

ケヤキの並木に加え、モノレール高架下には季節の移ろいを感じさせる多彩な植物を植え、駅からつながる都市のシンボル性を持った景観を形成しています。



写真：モノレールと平行するケヤキ並木  
(2級23号線)

## ② 地域の花の名所

市街地に近い幹線道路では、道路空間を覆うほどのサクラの並木が形成され緑のトンネルを形成しています。

広い道路の空間の中でサクラの特徴的な樹形が保たれていますが、一方で、個々の樹木では、老齢化が進んでいます。

都市公園や、体育館、野球場に隣接した道路では、道路空間を覆うほどのサクラの並木が地域の桜の名所となっています。また、歩道は改修済みで歩行空間には根上がりなども見られません。

個々のサクラは老齢化していますが、植栽基盤が広く確保され、樹勢は良い状態です。また、落枝などの後も見られ、太い枝にはせん定の跡も見られますが、丁寧な管理が施されています。



写真：市街地幹線道路のサクラ並木  
(中 128 号線)



写真：広場に隣接するサクラ並木  
(中 1 号線)

## ③ 河川の緑と一体的となった景観の形成

残堀川沿いの趣のあるサクラ並木では、河川と調和した景観を形成しています。

一方で、サクラの根元は、根上がりが見られ、歩道幅が狭く安全に歩行できるような形態ではないため、植栽基盤や歩行空間の改良が必要と思われます。



写真：残堀川右岸のサクラ並木  
(西 73 号線)

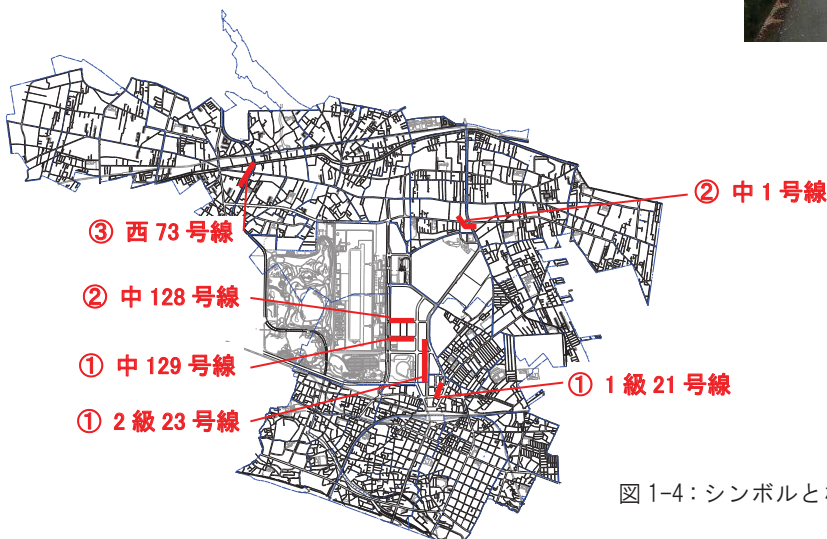


図 1-4：シンボルとなる並木、風格ある景観の形成する路線

## (2) 街並みとの調和

### ① 都市的な街並みとの調和

「ファーレ立川」内の歩行者専用道路では、都市的な空間の中に等間隔で列植されたハナミズキが、街並みとあつた印象的な景観を形成しています。

アートで飾られた空間では、街路空間に潤い感を与えるとともに、芸術作品の展示を引き立てる植栽となっています。



写真：「ファーレ立川」内のハナミズキ  
(中133号線)

### ② 広大な緑地との調和

広大な緑地に面してゆったりとした道路では、隣接する緑地との調和が図られた並木が形成されています。電線が地中化されたので空間に余裕があり、樹木も大きく育っています。



写真：国営昭和記念公園の緑と一体的な  
カツラの並木 (1級19号線)

### ③ 農業と住宅の景観との調和

農地が広がる景観の中にある直線的な道路では、リズムカルに街路樹が配植されています。広がりを持った景色の中で整った樹形と均等に配置された並木が、印象的な景観を形成しています。



写真：すずかけ通りのプラタナス並木  
(1級10号線)

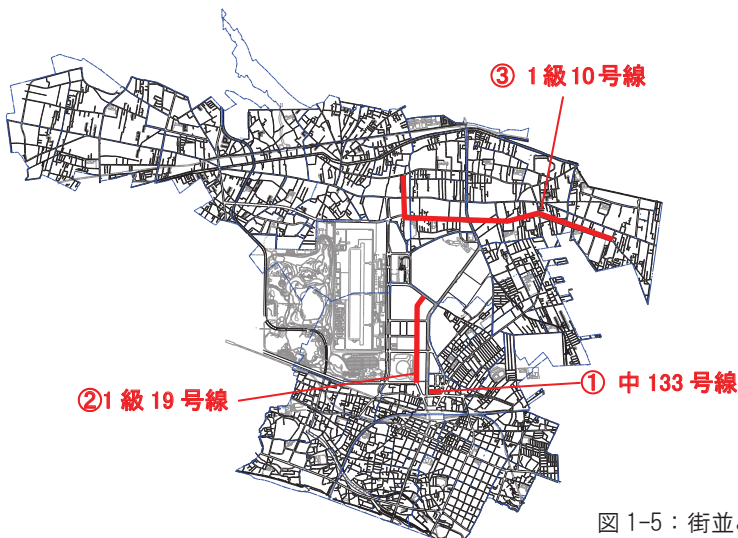


図1-5：街並みとの調和のある路線

### (3) 街並みへの潤い

#### ① 人工的な住宅地への潤い

イチヨウの樹形の特徴が表れた住宅地内の道路では、建物が並ぶ住宅地の印象を和らげ、印象的な住環境の景観を形成しています。

また、道路沿いに連続した街路樹は、隣接する民地に対し、道路の騒音を和らげたり、火災時の延焼を抑制したりする効果があります。



写真：住宅地内のイチヨウ並木（2級2号線）

建物が近接する住宅街の中の道路では、建物に寄り添うような緑の景観が作られています。

エンジュの緑量を保ちつつ、せん定により枝下の空間を確保しています。



写真：住宅地内のエンジュ並木（東12号線）

#### ② 四季の変化による街並みへの潤い

モミジバフウとトウカエデが混植された街路樹が、隣接する民地の緑とともに、街並みに潤いを与えています。紅葉の美しい樹種が、秋には季節感を感じさせ、豊かな歩行空間を形成しています。



写真：落葉広葉樹の混植の並木（2級22号線）

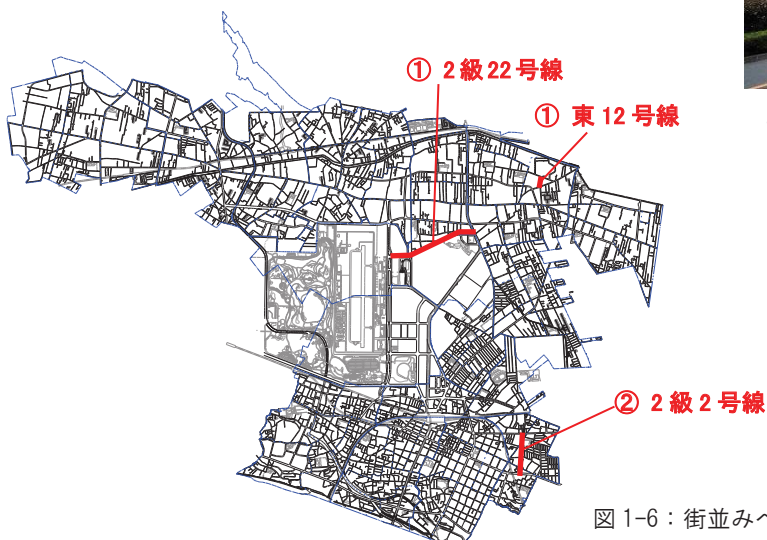


図1-6：街並みへの潤いのある路線



## 第2節 維持管理の状況

### 1 維持管理業務

#### (1) 日常の維持管理

本市では、街路樹の維持管理にあたっては、業務委託を発注し、以下の管理頻度で維持管理（せん定、ヤゴ取り、低木等の刈り込み、つる除去）を実施しています。

○せん定：ケヤキ（10月～2月）、サクラ（2月）は2年に1回 ※北口大通りは毎年

：その他街路樹（8月～10月）は1年に1回

○刈込：低木の刈り込み（6月～8月）は1年に1回

○せん定にあわせ清掃、除草などを実施

その他、市民からの要望など緊急性を要するものは、市職員が維持管理作業を実施しています。

#### (2) 街路樹の災害等への対応

市職員によるパトロールにより、危険木などが確認された場合は、市職員及び委託業者において事前に伐採するなどの対応を行っています。

近年、台風などの影響により倒木が多く発生し、平成30年度は72本を伐採し、令和元年度では14本を伐採しています。



写真：強風により倒れた街路樹

#### (3) 病虫害対策

害虫の調査を市民からの要望により行い発生が確認された時点で、薬剤散布をせずに、害虫がついた枝を除去する対応を行っています。害虫駆除には、早期発見、早期対応が求められています。

近年では、コブシハバチなどの特定の樹木に大量発生する害虫がみられるようになりました。このような毎年発生が予想される害虫に対しては、巡回を強化して早期に対応するようにしています。



写真：コブシハバチ  
(出典：立川いきものデータベース)

#### (4) 維持管理費

街路樹の維持管理費は、平成 22 年度から平成 28 年度までは 5 千万円前後でしたが、平成 29 年度以降は 7 千万円を超える執行額でした。

街路樹の維持管理費は、各年度の剪定本数及び執行額に差はありますが、過去 10 年間では、維持管理費の推移は概ね増加傾向にあります。

今後、街路樹がさらに高齢化、大径化していくことにより、維持管理にかかる費用はさらに増加していくことが予想され、限られた予算の中で効率的に維持管理を考えていかなければなりません。

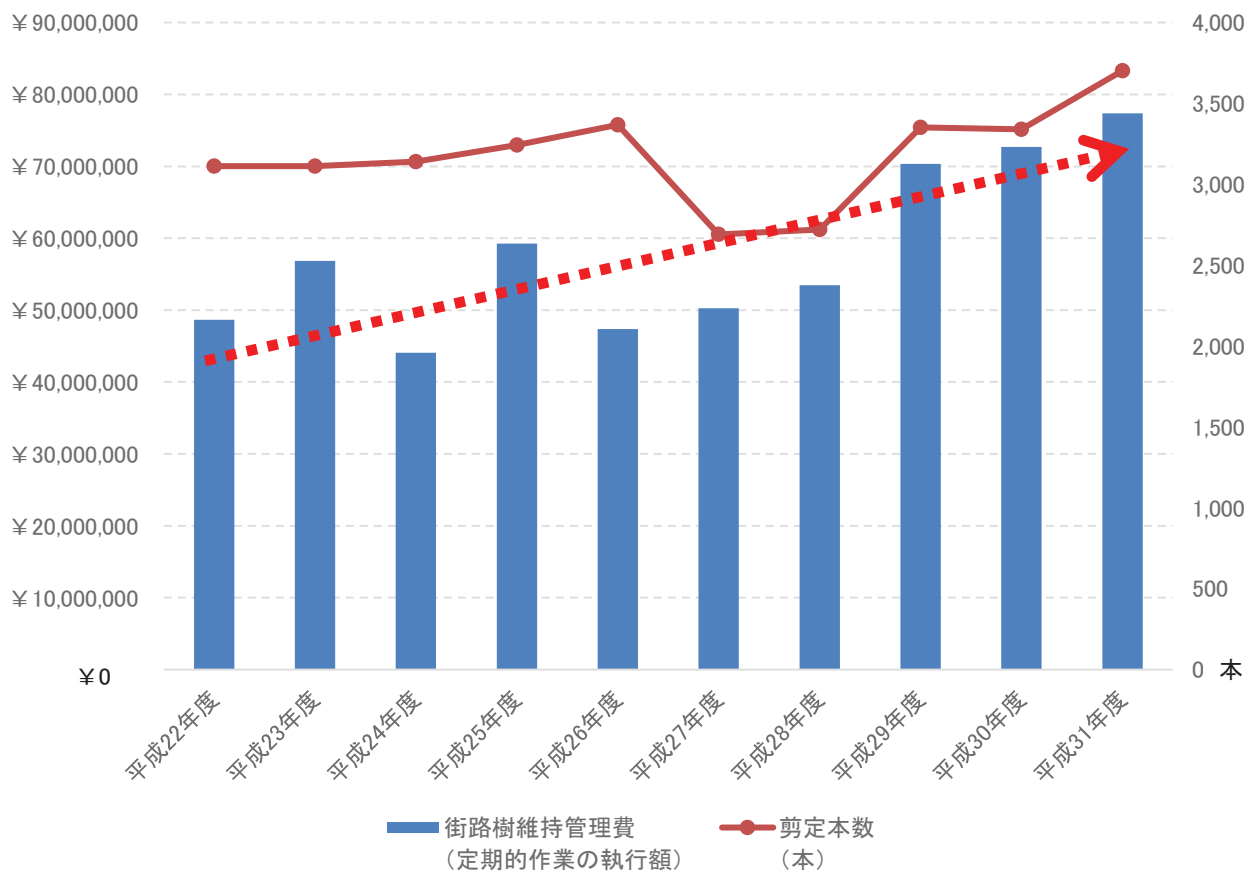


図 1-7：維持管理費とせん定本数

## 2 市民の関わり方

### (1) 市民からの要望

街路樹の維持管理において、市民からは、落ち葉の清掃や、民家に張り出した支障木枝の除去など様々な要望が寄せられています。

また、せん定時期についても、市民から早急に切ってほしいとの要望もあり、安全面から台風の被害が起きる前の夏期を中心にせん定を行っています。

しかし、落葉前に実施してしまうと真夏の日差し除けがなくなるとの意見を受けることがあります。

### (2) 市民との連携による維持管理

本市では、快適で美しい道路環境づくりを進める取組として、「立川市ロードサポーター事業」があり、地域にお住まいの方や企業などのボランティアグループと市の協働により道路の美化活動を行っています。

「立川市ロードサポーター事業」は、5名以上で構成された団体が、本市管理道路の一定区間の清掃美化活動を行う事業です。活動補助として、ボランティア保険の加入、ほうきなど清掃用具、ベストの貸与、ゴミ袋など消耗品の支給をし、ゴミ拾い、街路樹の落ち葉清掃、植樹柵の除草、草刈りなどの美化活動に参加して頂いています。立川市ロードサポーター事業の登録団体数は14団体、参加していただいている方は、546名（令和2年3月現在）になります。

この事業は地域にお住まいの方や利用者の方々が自ら参加することにより、地域環境へ関心を持っていただき、さらには、コミュニティーの形成にも寄与しています。



写真：「立川市ロードサポーター事業」  
（都営松中団地グループ活動状況）